

会 議 録				
平成27年度第2回 生活支援事業協議体	日 時	平成27年7月30日(木) 午後2時00分～4時00分	場 所	小金井市役所 第2庁舎801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 清水民生委員(民生委員児童委員協議会)		
	事務局	第1層コーディネーター 本山(介護福祉課) 第2層コーディネーター 鈴木(小金井きた地域包括支援センター) 金子(小金井ひがし地域包括支援センター) 中村(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮(小金井にし地域包括支援センター) 鈴木高齢福祉担当課長、本木、萩(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1)報告事項				
① 「介護予防・日常生活支援総合事業」と「生活支援体制整備事業」 新しい総合事業と生活支援サービスの基盤整備との相関性について				
② 取り組み目標と第1層・第2層コーディネーターの役割				
③ 包括圏域ごとの地域資源				
(2)協議事項				
① 包括圏域ごとの地域目標について(地域課題抽出シート) 発表による共有と今後の取り組み方法の検討				
② 第2層協議体の役割について 構成メンバーや具体的な協議内容の検討				
(3)次回協議体の開催予定				
3 その他				
4 閉会				

## 1 開会

鈴木高齢福祉担当課長より挨拶。

## 2 議題

### (1) 報告事項

#### ① 「介護予防・日常生活支援総合事業」と「生活支援体制整備事業」

新しい総合事業と生活支援サービスの基盤整備との相関性について

(高良委員長)

総合事業の中でどのようなサービス体系を作っていくかによって、この生活支援の整備事業の中で、例えば訪問型サービスのBを作らなければいけないという可能性も出てくるため、確認したところ、それを目標にする必要はないということであった。その他のさまざまな生活を支えるサービスの整備を目的として活動すればいいことを確認している。少なくとも今年度は、そのような目標になるであろう。

#### ②取り組み目標と第1層・第2層コーディネーターの役割

(本山委員)

最初の目標は、地域資源の把握と整理である。第2層の皆様には引き続き色々な情報を集めていただきたい。第1層は、収集した情報を整理して、今後はデータベース化をしていく予定である。その中から、平成27年度中に課題を把握するのが次の目標になる。平成28年度以降、ニーズを取り出し、第2層、第1層で具体的に解決のために動いていくことになる。コーディネーターが具体的に始動し、色々な関係機関と連携をとりながら進めることになる。

#### ③包括圏域ごとの地域資源

(萩主事)

小さな作業チームの活動について説明。本協議体は年4回開催する予定だが、協議体と協議体の間に第1層と2層のコーディネーターを中心としたメンバーから協力を得て、具体的な地域資源などの情報交換や協議体で話し合ったことを具体的に形づくれるように作業をする小さな集まりを設けていきたい。既に2回ほど試験的に実施しており、サロンなどの情報を集めてまとめている。具体的な動きを一つ一つ詰めていくために、この小さな作業チームの集まりは有用であると実感しているが、この活動を正式に続けてよいか。

(高良委員長)

小さな集まりは引き続き開催することとし、状況に応じて参加者を決め、できる限り柔軟かつ効率的に実施をしてほしい。

(萩主事)

小金井市の資源の現状について説明。「介護者支援」は、既に家族の集いなどがあり、「外出支援」や「家事支援」、総合事業で具体的な動きを検討している。「交流サロン」と「コミュニティカフェ」などの高齢者が集える場所は、社協の支援もあり、各地域にある。「声かけ」、町会、自治会、民生委員さんの他に、市の高齢福祉サービスでも一部実施している。「配食＋見守り」と「安否確認」も市や民間の事業所で行っている。「権利擁護」は、市や権利擁護センターなどが行っている。「食材配達」と「移動販売」は、地域では個人商店や一部の大型商店などが市民に食材やお弁当を配達するといった活動があるようだ。但し、年を重ねたことで買い物に不便を感じている方はまだ存在し、地域の商店街などは買い物客が減少しているなどの課題があるということのため、経済課などの団体と連携して、課題解決の糸口があるか否かを協議していきたい。

(高良委員長)

収集した情報の見える化について、どのような考えか。

(本山委員)

市のホームページへの掲載などの可能性を検討している。

(雨宮委員)

町会によっては情報を公にしたいところもあるため、配慮が必要である。

(高良委員長)

本来は同意が必要になってくると思うので、手続について詰める必要がある。

## (2) 協議事項

### ② 第2層協議体の役割について

構成メンバーや具体的な協議内容の検討

(高良委員長)

第2層の協議体を設ける目的については、どのようにお考えでしょうか。

(萩主事)

第1層に比べて第2層の協議体のほうが、地域の方々の声を直接反映できると思うため、設置する方向で考えている。

(高良委員長)

第2層コーディネーターは、第2層の協議体をどのような目的で活用したいか。

(雨宮委員)

地域の皆さんが問題意識を持っていただいて、実際に自分達で何とかして動いていただけるといったような協議体を作っていけたらいいと思っている。

(近江屋委員)

社会福祉協議会でも、小地域ネットワークを作る目的で、地域住民、関係者と一緒

にみんなで地域課題を考えて、解決まで結び付けるようなものを作っていく予定です。高齢者に限定せず、包括的に地域福祉の推進を目指しているので、全てを支援できるような形で地域のネットワークを作っていきたいと考えている。2層の協議体というのが、同じだなというのを少し感じまして、お話しさせていただきました。

(高良委員長)

参加者や人数、話し合いの内容を教えてください。

(近江屋委員)

具体的には今年度中に決める予定だが、地域福祉ファシリテーターが核となり、来年の4月にはどこかで一つスタートするのが目標である。

(高良委員長)

現実問題として、もう高齢だけという形では進んでいないと、一緒にやられたほうがいいと思うが、財源は介護保険で、そういった中でのコラボレーションのあり方というのを市のほうから示してもらえるか。

(鈴木高齢福祉担当課長)

市全体を取り巻く諸課題を包括的にケアできるようなシステムが理想だと思っている。まずは高齢者の部分からシステム作りを進めて、先々、子供や教育の関係といった部分も一元的に作り上げていくことが最終的な到達点という認識は持っている。

(高良委員長)

例えば、小地域ネットワークのメンバーに2層のコーディネーターも入って、話し合いの時間帯をずらして、まず全体の話し合いをして、その後、高齢以外の方は退席していただくと、高齢関連の話し合いのところが協議体のような役割を果たすチームになる。そのような可能性について検討してほしい。

(鈴木高齢福祉担当課長)

市としても検討課題ということで認識はしている。

#### ① 包括圏域ごとの地域目標について（地域課題抽出シート）

発表による共有と今後の取り組み方法の検討

(鈴木委員)

きたは地域課題として3つ挙がりまして、バスや電車で一人で外出していない人が多い。転倒している人が多いが、転倒への不安がないという人も多い。自分で電話番号を調べて連絡しない人、楽しめていないといった回答が多い。それを受けて、地域目標として友人づくりができる場所を作ってはどうかということで、短期目標として、どのあたりが外出しやすいのか、どのあたりにできたら嬉しいのかということ聞き取るということ。地域にある施設を回ったりするなどしてはどうかということを挙げた。地域ケア会議を11月に開催予定で、「社会資源をつくる」ということをテーマに

話し合うので、そういった場も活用してはどうかという意見が出ている。

(金子委員)

ひがしは、地域課題として、うつ傾向の高い方が多く、低栄養・BMIの低下している方が多く、運動器の低下している方が多いということが挙げられた。それらを踏まえて、うつ傾向が市内の中でもひがしエリアは高かったなので、そこに着目し、今ある社会資源を活用して居場所作りをすることにした。今までも、さくら体操を使った自主グループ作りに力を入れてきましたので、さくら体操をツールとして利用することを検討しており、まずは地域にある施設に声かけをしてみるようになった。短期目標としては、施設担当者と打ち合わせの場を持つことです。その上で、方向性や内容などの詳細を地域住民に周知することを考えている。

(高良委員長)

大体皆さん同じように居場所的な、拠点を作るというような目標となったようだが、にしとみなみエリアから、今日中に確認したいことがあったら話してほしい。

(中村委員)

みなみのほうでも、長期目標としては、バスに乗らず徒歩や自転車で出かけられる拠点を増やすということで、遠い将来の中では具体的に参加者を作りたいというのを包括内で話している。実際、行動目標が具体的に動き出すかということ、まだ決まってはいるが、動き出した時に、そういったアプローチ方法のマニュアルなど、共同して動けるような方法があればいいと考えているので、ぜひその点について、また意見をもらえたらと思っている。

(雨宮委員)

G I Sの結果から地域課題を出したが、にし地域は、小地域ケア会議で出された課題と地域の声と違う部分があるため、独自で作成したアンケートにより調査している。

小地域ケア会議や調査結果を踏まえて、地域の目標は変わる可能性がある。

(高良委員長)

チェックリストだけでは見えてこないものは多々あると思うので、地域からの生の声を反映しながら、地域課題の把握をしてほしい。

### 3 その他（次回の予定）

第3回協議体は、東京都の研修後の12月中に開催する予定とする。

### 4 閉会